ナギラ　セツコ
柳楽　節子

短期大学部・教授
武蔵野美術短期大学

主な研究業績

■第 43 回モダンアート展「優秀賞」受賞　会員推挙　1993 年（東京）

■プリンツ 21 グランプリ ‘96 入選 1996 年（東京）

■ARTBOX 大賞展入選　1996　1997 年（東京）

■環境芸術学会作品発表　（兵庫 福島　東京　北海道　福井　神奈川）　2002～2009

研究テーマ

版表現の可能性を探る

概　　要

シルクスクリーンの技法により作品制作を行っている。
シルクスクリーンという版種は、刷りの支持体を紙に限定せず、布、木、金属、ガラス等、多様な素材に刷ることができるという特質を持っている。
私の場合、版画の制作においては紙に刷るが、作品によっては、木製パネルに布を貼り、その表面に刷りを行うこともある。さらに、作品を発表する場によって、木製の箱、レンガ、ゴムロール、帆布等に刷る場合もある。

作品のテーマを「生命」とし、主として果実、人物などを作画のモチーフとしている。また生命をイメージさせる静物を写真撮影し、コンピュータに取り込み、ポジフィルムをプリントアウトし、製版することもある。

版表現の特徴として、平面性、線描、複数性などを挙げることができるが、私は版表現の魅力は何よりも画面から感じられる「切れ味」にあると考えている。版を重ねて絵を完成させる過程で、一版ごとの版の役割と効果が画面に明確に表れた時、表現に緊張感が生まれ、すべての版が過不足なく納まり絵が完成に至った場合にのみ、作品に説得力を持たせることができる。

応用分野

版表現の特徴である複数性と、シルクスクリーンの特質である支持体の多様性を生かし、2002 年から現在まで、環境芸術の分野で作品制作を試みている。屋外も含め、さまざまな空間の中での版表現の可能性を探っている。

共同研究へのニーズ

幼児・児童を対象とした、造形分野での版表現の展開に関心を持っている。幼児・児童達の創造性を発見し、伸ばすことができる、楽しさとエネルギーに満ちた造形表現活動の可能性を探りたい。